

第1回銚子市行財政改革審議会 会議概要

日 時：平成28年5月18日（水）午後1時30分～午後4時45分

場 所：全員協議会室

出席者：委 員 大塚委員、伊永委員、館野委員、岡田委員、野口委員

銚子市 越川市長 島田副市長 飯田理事 宮澤政策企画部長 長島総務市民部長
石井健康福祉部長 伊藤企画課長 宮内財政課長 林保険年金課長 網中
税務課長 林医療対策課長 古田観光商工課長 石田都市整備課長

事務局 小保方課長補佐 野口主査

傍聴者 市議会議員10人 ほか報道各社

事務局

1 開会

2 委嘱状の交付

（大塚委員、館野委員、伊永委員、岡田委員、野口委員の順に交付）

3 市長挨拶

皆さんこんにちは。銚子市長の越川でございます。委員の皆様には、本日お忙しい中、銚子市行財政改革審議会、平成28年度の第1回会議にお集まりをいただきまして、ありがとうございます。本日から会議を開催していただき、第7次銚子市行政改革大綱について、答申をいただくこととなります。

私が市長に就任したのは、3年前の平成25年5月のことです。この初登庁のあいさつの中で、私は、銚子市の「財政危機」を宣言いたしました。あまりにもひどい財政状況であったためです。

当時の財政推計によりますと、平成25年度に約6億円の赤字が発生する。その後も毎年、赤字が発生し、蓄積をし、平成31年度までに37億円の赤字が累積するという推計でありました。

行財政改革を行わず、何の手も打たなければ、平成28年度には「財政健全化団体」となり、平成29年度には「財政再生団体」になるという見通しでありました。

この状況を踏まえて、第1期の銚子市行財政改革審議会を立ち上げ、3年間にわたる事業仕分けを行いました。また、平成26年6月には行革審の議論を踏まえて「銚子市再生の緊急改革プラン」を策定し、行財政改革に取り組んで

きたところでございます。

平成28年2月時点の推計では、平成30年度には一定のバランスを保てるという推計となりましたけれども、これは学校の統合でありますとか庁舎の整備などの経費を全く見込んでいない数字であり、また、土木予算なども本当に最低水準の状況での推計でございます。

財務省の診断で示されたとおり、基本的には債務が多く、積み立てが少ない、厳しい資金繰りが当面続くということになります。とても健全財政とは言えない状況にあるというのが銚子市の現実の姿であります。

地方創生、地域活性化のお金を生み出すためにも、さらなる行財政改革が求められます。

その改革の基本となるのが、今回諮問いたします、第7次の行革大綱でございます。

銚子市の明るい未来を切り開くためにも、活発な、そして厳しいご議論をいただきますよう、お願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。

どうぞ、よろしく願いいたします。

4 幹部職員紹介

(越川市長、島田副市长、飯田理事、宮澤政策企画部長、長島総務市民部長、石井健康福祉部長の順に紹介)

5 委員自己紹介

(大塚委員、館野委員、伊永委員、岡田委員、野口委員の順に自己紹介)

6 会長・副会長選出

(委員の互選により、伊永委員を会長に、野口委員を副会長に選出)

7 諮問

(市長より諮問書を読み上げた後、伊永会長に手渡す。その後、市長及び副市长退席)

8 議事

議事に入る前に審議会の運営方法について次の3点を確認します。

1 審議会は、資料1の「銚子市行財政改革審議会の傍聴に関する定め

事務局

(案)」により、原則公開

2 会議録の記録方法は要点筆記

3 会議録は委員全員の了承後、市HPに配布資料とあわせて公開
ということで進めてよろしいでしょうか。

全て異議なし

伊永会長（議長） 議題1の「市の財政状況」について説明をお願いします。

財政課長 (資料2-1及び2-2に基づき説明)

大塚委員 地方交付税の増加が見込まれていますが、国勢調査の人口も減少し、また、国の骨太の方針2015でトップランナー方式が打ち出され、一番お金を使ってない所が基準になるため、銚子市の場合は地方交付税が当然減ると考えるべきです。普通建設事業費をかなり抑制していますが、公共施設等総合管理計画に出て来る更新費用との対比でみると、単なる先送りにすぎません。現実的な収支見通しを作成していただき、それを議論の出発点にしたいと思います。

館野委員 退職手当の一般負担金の減額9億4,100万円については、推計期間の中では減額になりますが、期間の延長をしてもらったもので、全体的な額では減額ではないはずです。普通建設事業費の中でも広域ごみ処理施設の建設などは、銚子市だけの意向では期間の変更などはできないので、収支見通しに加えるべきと思います。

伊永会長 広域ごみ処理施設も進めるのであれば、ある一定の数字を仮置きして、支払計画も入れたものでないと全体が見えないので、それは加えるべきと思います。

館野委員 公共施設の統合を進めていくと、物件費や後年度の維持管理費が抑制されていくという面もあります。逆に単年度の普通建設事業費を抑えるために、先送りすると縮小効果も得られなくなってしまいます。それを踏まえて次回、新たな収支見通しを出してもらえればと思います。

岡田委員 資料 2 - 1 を見れば平成 3 1 年度までに黒字になるので大丈夫だろうという判断をしてしまいます。本当はどうなっているのか情報を集めて、実際の収支を分かるようにしなければならないと思います。

その中で歳出を削減し、歳入を増やすのがセオリーですが、ふるさと納税などの歳入の部分がまだ弱いような気がします。

野口委員 8 ページの市債残高の推移で平成 2 6 年度の市債残高で、資料に明示されたものを足すと約 2 0 0 億円で 1 0 0 億円くらい差があります。これの中身を開示していただく必要があります。

政策企画部長 道路、公園、住宅などの土木施設関連の起債残高が約 3 7 億あります。また、約 1 6 億が小中学校の耐震関連や過去の建設、大規模改修をした部分の起債の残高が入っています。その他に退職手当債であるとか、漁港建設の負担金に毎年度起債を充てていますので、農林水産関連だけの残高でも 1 7 億あります。

大塚委員 負債については、3 0 0 億が若干減りつつあるとの報告でしたが、あまり減っていない。銚子市は平成 2 6 年度決算で 4 億の利子があります。それだけ 3 0 0 億の借金が財政に影響を与えています。

伊永会長 引き続き資料 2 - 3 の説明をお願いします。

財政課長 (資料 2 - 3 に基づき説明)

大塚委員 5 ページの歳出の目的別の区分の中で、教育費が 1 0 億くらい減っている理由だけ教えてください。

財政課長 平成 2 7 年度までは小中学校の耐震改修を行っていましたが、平成 2 7 年度でこの事業が終了しましたので、それによって減額になりました。

舘野委員 ふるさと納税を見込んで 2 億 5 , 0 0 0 万円増というのは、少し冒険かと思います。国民健康保険事業の財政調整基金の残高が平成 2 7 年度末に

枯渇してしまい、介護保険の積立額も28年度はほとんどない。非常に苦
労して無理に組んだというのが正直な感想で、決算については県としても
心配しています。

伊永会長 ここで議題の1は終了し、議題の2に入ります。最初に「銚子市再生の
緊急改革プラン」の説明をお願いします。

財政課長 (資料3-1に基づき説明)

伊永会長 「銚子市再生の緊急改革プラン」は、第1期の行財政改革審議会の第3
次答申として出された提言をもとに、銚子市の中で提言から一部をピック
アップして作られたものです。提言そのものは多岐にわたっていましたが、
その中から歳入と歳出だけを市が独自に選んで緊急改革プランとして取り
上げたものです。

館野委員 緊急改革プランについては、進行管理をきちんとするのが重要だと思い
ます。緊急改革プランが目指したのは、95パーセントだった経常収支比
率を90パーセントに引き下げることで、それに対し達成率137パーセ
ントというのは違和感があります。これは実績の取り方の問題で、未収金
対策では、25年度の収入未済額から26年度の収入未済額を引いていま
すが、過年度の滞納分の徴収額がいくら上がったのかを見た方が、もっと
分かりやすい数字になると思います。歳出の方でも、事業仕分けは個別の
事業ごとに改善効果額を見ていかないといけないと思います。

伊永会長 最終年度3億9,000万円の未収金の対策の目標を立てていますが、
2年前の感想は、この後未収金を回収するのは相当困難だろうという感想
を持っていました。

野口委員 この数字の根拠を見ると、去年の未収金の残高と今年の未収金の残高を
差し引いているだけで出している。そうすると過去の24年度、25年度
の未収金との差額を見るとかなり大きな金額になっている。何を除いてい
るのか分からない。実際に回収できていないのではないのでしょうか。

館野委員 本当に取れたものと、時効で無くなったものは全く性質が違うものですので、時効で無くなったものが入るような数字の取り方は、少なくともおかしいと思います。

伊永会長 今、市税の徴収率はどのくらいで推移していますか。

税務課長 徴収率ですが、平成24年度86.07パーセント、平成25年度88.67パーセント、平成26年度89.44パーセント、平成27年度の見込みは90.63パーセントとなっています。

伊永会長 今のように少しずつ伸ばしているということですね。

大塚委員 銚子市では、税金と国保を完全に切り分けていて、国保の徴収率が非常に低く、60数パーセントだったと思います。財政の改善のための対策であれば、税金と国保を分ける考え方をやめて、一体で回収していかないと本質的な改善にはならないと考えています。

伊永会長 ただ、国保の場合は数年後、県が扱うことになります。

大塚委員 その数年が重要だと思います。

また、ふるさと納税の現実をみると地元の産業振興として使われているケースが多く、銚子市のようにお金が足りないからふるさと納税ということをやっている団体は正直多くないです。財政の対策でふるさと納税に依存しているような形というのは、気になる点です。市民、議会、行政の情報共有の部分、実績を見ると観光情報を出したとしていますが、必要なのは銚子市の財政がどうなのかを市民の方にしっかり理解していただく、その上で、その対策についても理解をしていただくことだと思います。

伊永会長 次に「第6次行政改革大綱」の説明をお願いします。

財政課長 (資料3-2に基づき説明)

伊永会長 そもそも大綱とはこういうものなのではないでしょうか。

大塚委員

この審議会で大綱を作るのですが、何を目的としたものを作ればいいのか、はっきりしていない気がします。これまでの話を伺っていても決算を黒字にすることがとにかく第一になっています。決算を黒字にすればいいかという夕張市の例があります。夕張市は破綻直前まで赤字になったことがありません。また、破綻後も決算上は黒字を続けていますが、夕張市の人口は大きく減ってしまいました。行政改革大綱が単に決算を黒字にするためと言われると、方向が違ってきてしまいます。

伊永会長

銚子市が作るべき大綱については、骨太の行財政改革の考え方を作るのが、この審議会の目的ではないかと思っていますが、委員の皆さんの認識はいかがでしょうか。

岡田委員

私もそのような印象を受けています。これまでの大綱は非常に細かいことまでやっています。あまり細かく給料とか下げたりしますと、モチベーションというのは必ず下ります。それでメンタルな面を削ぐのが本当に心配です。かつて、県が給与体系を変えて、子育て世代はいじらないように、50歳以降の人は10年間そのままと、そういうメリハリをつけてモチベーションが下がらないような方向でもっていければと思います。

野口委員

今回の答申を出すに当たって、赤字になったとしても、市民全体で支えて、将来的には黒字にして明るい銚子市というのを作っていくための赤字であればいいですし、そういう風に答申していきたいと思えます。皆さんと同じ意見です。

伊永会長

今までの6回の大綱と同じやり方では、同じことの繰り返しになります。少し違いを出して、銚子の本当の意味での赤字を解消していくための背骨になる大綱を作り、この大綱を基に、様々な審議会を経たものを大綱の方針に沿うような形で直してもらうことも大綱の中に書き込んだ方がいいと思えます。

伊永会長

次に「銚子市公共施設等総合管理計画」の説明をお願いします。

財政課長

(資料3-3に基づき説明)

大塚委員

公共施設の改廃の話になると、各論反対が起こりますので、総合計画の段階で、改廃の一般基準を作っておかないと個別計画は作れないと思います。

また、資料表面の更新費用の38億を重視してもらいたいです。先ほどの収支見通しでは8億にまで減らすという話ですので、とても7億程度の不足ではないと思います。

伊永会長

個別計画に移る前に、50年先を見て20年間の計画を作られるよりも、5年くらいを見て、5年以内にこうなったら廃止又は統合という基準作りをしてから個別計画に移る方がよいと思います。

野口委員

公共施設の一覧表にランニングコストが入っていた方が、市民もそれを見て、無駄かな、廃止しようかなと考えると思います。人が張り付いているかどうかを書いておいた方がいいと思います。

伊永会長

次に「銚子市しごと・ひと・まち創生総合戦略」の説明をお願いします。

企画課長

(資料3-4に基づき説明)

伊永会長

別紙「市民税業種別の所得水準構成比一覧」の説明をお願いします。

税務課長

(追加資料に基づき説明)

伊永会長

私の望んでいたのは、第一次産業、第二次産業、第三次産業が銚子ではほぼ拮抗したような状態と、前回の審議会でも伺ったもので、それに従事している人口と総所得を割り出して、1人当たりの所得と納税額を知りたかったのですが、そういうものを次回までに用意してもらえないでしょうか。

税務課長

税務課では、統計法に基づく産業分類区分を地方税関係資料に付設していないので、これをやるとなると大量の作業が発生しますので、かなりの長期間を要することになると思います。

- 伊永会長 ズバリは難しいとの説明でしたので、近いものを努力してくれませんか。総合戦略についてご意見ありませんか。
- 私の感想としては、これだけたくさん事業があると、これに全てお金を投入していくのは、銚子の財政を考えると無理なので、KPIで評価して選択していくということで進められるのですね。
- 企画課長 効果のないものは進める前提にはならないと思いますので、行政改革を進めていく中で、財源を生み出して、しごとづくりに繋がるような、経済の好循環に繋がるような施策は、積極的にやっていきます。
- 伊永会長 つまり、選択と集中はやっていく、バラマキにはしないということですね。
- 企画課長 そういうことです。
- 伊永会長 次に「地域雇用創造事業」の説明をお願いします。
- 観光商工課長 (資料3－5に基づき説明)
- 伊永会長 次に「都市計画マスタープラン」の説明をお願いします。
- 都市整備課長 (資料3－6に基づき説明)
- 伊永会長 時間の都合により、ここで大塚委員と館野委員は退席されます。
- 来月、第2回会議を実施しますが、各委員には、6月17日までに意見書を出していただきたい。この委員の意見を木の幹に例えた形で、行革大綱を作っていきたい。細部については、市役所の方に枝葉を付けていただきたいと考えています。
- 来月は、この意見書と銚子市からも市政の課題や財政の新しいデータをご説明いただいて、どういう風に各委員の意見をうまく反映しながら全体的にまとめていくか、ということを進めていきたいと思っております。
- (大塚委員及び館野委員退席)

伊永会長 「地域雇用創造事業」と「都市計画マスタープラン」について、委員の皆さんの意見等がなければ次に進めます。

意見等なし

伊永会長 次に「銚子市立病院の方向性を検討する委員会」の説明をお願いします。

医療対策課長 (資料3-7及び追加資料に基づき説明)

伊永会長 追加資料の入院患者数が28年度及び29年度事業計画で伸びる根拠は何でしょうか。

医療対策課長 平成28年度は、療養病棟を1病棟開設いたします。昨年是一般病棟2病棟の体制をとっていましたが、病床利用率が約42パーセントで、1病棟分が空いていました。それを療養病棟に代えることで、患者が増えるという見込みです。平成29年度に努力してもう1病棟開けるという計画をしています。

伊永会長 療養病棟は、旭中央からの受け入れを考えているということですか。

医療対策課長 はい。

野口委員 資料の3-7ですが、下から3段目のA+Bから、一番下の段を引いたのが、その年度で病院に支払う金額という考えでいいのでしょうか。

医療対策課長 病院事業の運営の経費ということで、起債の償還などの経費がその差額になります。

伊永会長 水道の長期借入金は、いくら借りたのですか。

医療対策課長 7億です。

伊永会長 これは10年の返済計画ですか。

医療対策課長	平成33年度末までに返済する予定です。
岡田委員	銚子市の財政に与える影響は大きいものがあります。
伊永会長	医業収入が伸びないと、どうしても銚子市に負担がかかってしまうので、それを3億までに繰出しを限ったら、どこかで赤字に陥ってしまいます。
岡田委員	県からの指摘については、どのように返答するのですか。
医療対策課長	縮小等の検討をしてはどうかとアドバイスをもらいました。市の方針としては、縮小では十分な医療が提供できないという考えで、公社も病床を広げたいという計画です。
伊永会長	医師としては、十分なことができなければ、組織に留まることができなくなり、やるべきことがやれる組織でなければ医師、看護師もその組織でやっていくのは辛いと思います。この市立病院を維持してくつもりならば、患者数を伸ばすというのが1番のポイントですが、特徴的な取り組みはありませんか。
医療対策課長	旭中央病院の看護師だった方が、市立病院の地域連携室長として入ってくれましたので、現場レベルでの情報交換、連絡ができるようになりました。それまでは入院患者が月5人程度だったのが、月10人程度になったということもあります。旭との連携については、人の面でもできて来ています。
伊永会長	続いて「今後の予定について」事務局より説明をお願いします。
事務局	(資料4に基づき説明)
伊永会長	今日の審議会はこれにて閉会にしたいと思います。どうもご協力ありがとうございました。